

幸せの歌



JA宗谷南

2017NEN
NEW YEAR GOU
~SEASON53~

年頭の挨拶



宗谷南農業協同組合
代表理事組合長



新年あけましておめでとうございます。年頭にあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

皆様におかれましては、輝かしい新年を迎えられ、心からお慶びを申し上げます。又、日頃から農協の各事業の推進に對しましては、格別なるご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

平成28年を振り返りますと、アメリカ大統領選挙の結果、共和党のトランプ氏が勝利したことにより、日米関係の焦点でありましたTPP（環太平洋経済連携協定）から脱退する方針を表明しました。トランプ氏はTPPに代わり、二国間の貿易協定（FTA）に軸足を置く考えを示しており、今後どの様に進展するか先行き不透明であり、警戒が引き続き必要な状態です。

道内におきましては、昨夏相次いだ台風上陸により上川地方、十勝地方、オホーツク地方などに甚大な被害をもたらした。農産物の水害による被害額は、1981年8月の「56水害」の612億円に次ぐ550億円に上りました。北海道と国土交通省の集計では一連の台風によるインフラや農業などの被害総額は2,786億円に上り、北海道の台風被害、水害で過去最大となりました。当地区においては、一年を通じて若干の風水害はありましたが、全体としては、被害も最小限に留まり、安堵しているところです。

国内の農政は政府の規制改革推進会議より農協解体論、JA弱体化を目的とした、信用事業譲渡（代理店化等）、組勸制度の廃止論、指定生乳生産者団体制度の見直しなどが意見として提出され

た。このことは、我々、生産者、農協組織として到底受け入れられるものではなく、JA北海道として連日の様に政府与党に要請を行い、その結果11月25日の自由民主党政務調査会ではJA信用事業の代理店方式については組合員の事業利用に係る事であり、あくまでも選択肢としてJA自らが判断することに、組合員勘定制度につきましては、組合員からも支持されており廃止するのではなく、現場の意見を取り入れて地域で求められている機能を十分に発揮できるように、今回の議題から削除されました。又、指定生乳生産者団体制度については、機能を適正に発揮することが今後も重要であり、生乳の飲用向けと加工向けの調整及び条件不利地からの集乳等の確保の条件を満たすことを前提に、部分委託についても場当たりのな利用を認めないルールとすることなどが決議され、結果的に意見を押し戻した結果となりました。

当農協の生乳生産量は、上半期は前年比を上回る勢いでありましたが、7月以降減産傾向となり、28年の出荷乳量は（クミカン年度）56,185トン前年対比99.4%にとどまっております。昨年は搾乳中止や離農組合員が2戸を数えたことや、粗飼料の収穫期には天候不順の中収穫されたことにより、タンパク、エネルギー等の栄養価が低い粗飼料の収穫となったことも要因と思われる。その様な状況から対策として、乳量増産を目的とした乳用牛増頭・保留対策事業を実施し、生乳増産を計りました。

組合員の営農収支内容につきましては、生乳生産量減産となった組合員が多く散見されましたが、昨年からの肉用牛、特に初生犢・F1の価格高騰により、個体販売については過去の最高価格を更新する高値状況が続いたこともありクミカン精算は無事終了する見込みであります。

新年度の営農計画画樹立においても、無事営農計画書の作成を終えましたが、一部の組合員におかれましては厳しい内容となっております。やはり、組合員の所得向上には生乳生産が基本でありますので、日頃の乳牛の健康管理を含めた飼養管理を徹底することが安定経営につながることを念頭に生乳生産増加に取り組んで頂きたいです。又、酪

農経営に希望を持ち、歌登地区に1戸の新規就農者が昨年11月に就農し、新たに組合員となりましたので、地域組合員の皆様のご助言、ご指導をお願いするところであります。

組合事業の年度末収支見込につきましては、前年と同様に安定しており、販売事業につきましては、生乳販売量の落込みはあるものの、個体価格の高値により良好に推移しており、購買事業全体と致しましても本年度計画通り推移しております。懸念事項であります不採算部門については、経営改善が求められています中、試行錯誤しながら解消に努めているところでありますが、Aコープについては、パート職員の退職も多々あり、最小限の人員で運営をいたしている状況です。移動購買車につきましては、買い物が困難な高齢者や農繁期の組合員のために稼働しており、利用者の皆様に大変喜ばれており、当初の目的が達成されている事と思っております。又、メカニックサービスにおいては、厳しい状況ではございますが、こちらも最低限の人数で数字的にマイナスを減らすよう努力しております。今後も組合員皆様のご利用、ご協力を仰ぎながら整備事業が継続出来るよう事業展開をまいりますのでご理解を賜りたくよろしくお願い致します。

又、子会社の（株）アグリサポート枝幸におきましては、昨年出資金の増資を行い、重点目標に掲げていました、メガファーム建設の補助事業が採択され、昨年には敷地造成を終了しており、いよいよ今年春に施設着工する運びとなりました。メガファームにつきましては、毎年高齢による数戸の離農者が発生しており、21年の合併時の生乳目標でもありました60,000トンの達成、今後の宗谷南農協の基盤強化の為、現状乳量の維持、増産、離農農地の補完等を目的とし、又、地域の雇用も視野に入れての構想でございますので組合員皆様のご理解を頂きたいと願っております。最後になりますが、組合員並びにご家族様、関係各位の皆様にとつて事故のない健康で豊穡の一年でありますよう衷心よりご祈念申し上げます。

年頭の挨拶



北海道農業協同組合中央会

会長

飛田

稔章

組合員並びにJA役職員の皆様方には、ご健勝にて輝かしい平成29年の新年を迎えられたものと心よりお慶び申し上げます。

皆様方におかれましては、日々の営農と併せ、地域農業の振興や地域社会の発展に向け、日頃より多大なご尽力をされていることに対して、改めて敬意と感謝を申し上げます。

昨年の北海道農業は、春先からの天候不順、8月中旬から相次いで上陸・接近した4つの台風の影響により、河川の氾濫、農地の流出、関連施設の損壊、停電による生乳廃棄など、全道各地で甚大な農業被害が発生しました。現在もその傷跡は依然として深く残っており、復旧・復興に向けた懸命な努力が続けられているところとです。

今後とも、JAグループ北海道は、組合員の皆様や夢と希望を持って営農と生活が続けられる環境を整えること、地域農業とJAの発展に全力でサポートいたします。

また、全農改革を始めとする農協改革並びに指定生乳生産者団体制度のあり方を含めた農業競争力強化プログラムの取り纏め、次期米国大統領ドナルド・トランプ氏のTPP離脱・日米二国間交渉の表明、EUとのEPA交渉の動きなど、我が国の農業・JAにとって先行き不透明感が増大す

る情勢変化があった一年でした。

JAグループ北海道は、今後とも必要な農政運動や国民理解へ向けての情報発信、JA経営の基盤を強化し、組合員の皆様の不安を払拭し、持続可能な北海道農業の確立に向け、万全な対応を図って参ります。

さて、現在、JAグループ北海道は、第28回JA北海道大会のメインテーマである「北海道550万人と共に創る力強い農業と豊かな魅力ある農村」の実現に向けた決議事項に基づき、その着実な実践を図っているところです。

昨年はJAグループ北海道の実践状況について、全体共有を図るとともに実践への機運を高め、JAグループ内外に実践状況を発信すべく、JA北海道大会実践フォーラムを開催致しました。

引き続き、JAグループ北海道の英知を結集し、北海道550万人から信頼され、ともに歩んでいくJAグループ北海道を目指して参ります。

関係各位の特段なるご理解とご協力の程、宜しくお願い申し上げます。

一方、農業情勢では、世界規模での異常気象の発生、人口増加、経済情勢の変化などを背景に、国際的な食料の需給事情は常に不安定な要因を抱えており、我が国として、先を見据えた中で食料自給率の確保などによる食料の安全保障体制をいかに確立していくかが問われています。

言うまでもなく、農業は、食料の安定供給という、国民生活に欠かすことができない極めて重要な役割を担っている生命産業であり、その役割は未来永劫変わることはありません。

JAグループ北海道は、その責任感と自負心のもと、あらためて協同と相互扶助の精神に立ち返った中で、現下のさまざまな課題を克服すべく、力を合わせていく時であります。さらに農業・JAに対する幅広い理解と共感を得るべく道民550万人サポーターづくりの取組みを積極的に進めながら、自己改革を加速させ、長年にわたり先人

が築き上げてきた本道農業並びにJAの基盤をさらに発展させ、後世に継承できるよう努力して参ります。

結びになりますが、今年の干支は丁酉（ひのと）です。一説には、丁は、「安定する」という意味があり、酉は「果実などが成熟し実る状態」を表しているとのことでもあります。

今年は、この酉年にあやかり、天候に恵まれ実り多い安定した一年となりますよう、併せて、北海道農業並びに組合員、役職員の皆様の一層の発展を心よりご祈念申し上げます、新年にあたってのご挨拶といたします。



新年の挨拶



謹んで新春のご挨拶申し上げます。

旧年中は部員並びに組合員様ご家族様、また宗谷南農協を始めと致しました各関係機関の皆様方に日頃の青年部活動に對しましてご理解ご協力、叱咤激励ご助言頂き誠にありがとうございました。

経済面では近年に見ない個体価格の高騰、乳価の価格も高水準で安定と酪農所得向上を目標としている中で大変やりがいと、楽しみのあった一年でありました。

しかしながらここ何年か続く牧草収穫時期の長雨により収穫作業も予定通りに進まず、草地型酪農が多い宗谷地区としては、良質な粗飼料が生乳生産、牛体の健康管理の大部分になるため頭を悩ませる一年でもありました。

青年部活動としましては、今年も新規部員が、3人増え大変にぎやかな部活動が行えました。若い後継者が減る中、少しでも組織というものに入って一致団結する素晴らしさを知っていただきたくこれからも積極的に勧誘していく他、4Hクラブとも連携し若い人が入部しやすい青年部にしていきたいと思っております。

また、我が青年部盟友も3組の結婚と言う

大変うれしい話が続いたのも青年部として仕事と生活の両立を謳っている青年部にはうれしいニュースでありました。

食育活動も、紙芝居、農村ホームステイなど例年通りですが、北海道農協青年部協議会では、農村での宿泊をともなった体験をもとに、先生の立場から子供達に「食」の大切さにも、先生の立場から子供達に「食」の大切さにもとより「命」の尊さ、「いただきます」が持つ言葉の意味などを伝えていたいただきたいとの想いで、平成25年度から学校の先生を対象とした、ありのままの農村体験事業「農村ホームステイ」を展開しております。歌登地区の関口牧場のホームステイも無事成功し、音標小学校の即座先生からも大変貴重な体験をしたとの言葉を頂き、うれしく思います。そのような中、音標保育所のほうから紙芝居を見たいとの打診をいただき食育の大切さを改めて感じました。

歌登でのサマーフェスタ、枝幸でのよくばりフェスタ、流水フェスタなど消費者との交流もみるきーちゃんのおかげで大変盛り上がり、年々交流の形が出来上がっていくのが感じられます。

最後になります。旧年、大変不慣れな青年部運営で迷惑や不快な思いをさせてしまった事があったかと思えますが、それを反省しつつ今後の青年部活動や地域発展のために今後も頑張っていきたいと思えますのでこれからご指導ご鞭撻のほどをよろしくお願いし新年の挨拶に代えさせて頂きます。本年もどうぞよろしくお願い致します。

宗谷南農協青年部

部長	今尚春
副部長	松田 尚
副部長	大塚 悟
理事	関口 真也
理事	向井 善史
理事	森次 勇治
監事	井上 英之



新年の挨拶



J A 宗谷南女性部
部長 奥出 きい

平成29年の新春を迎え一言ご挨拶申し上げます。新年明けましておめでとうございます。皆様方におかれましては、健やかに新年をお迎えの事とお慶び申し上げます。

昨年は10月末に降った雪がそのまま雪となり、まだ秋の仕事の終りのないまま冬が来てしまい慌てたのは我が家だけではな
いと思います。近年は、雪解けが遅かったり、夏・秋に長雨が続きたりと非常に天候に左右される事が多く、粗飼料収穫等にご苦勞された事と思います。又、九州地方を襲った大地震により犠牲になられた方々も多く、ご冥福をお祈りするばかりです。

さて昨今、農協改革、指定生乳生産者団体制度改革など、JAは岐路に立たされている状況の中、農協組合員も真剣に考える時に来ていると思います。指定生乳生産者団体制度は、一元集荷多元販売機能を持ち毎日生産される生乳は腐敗しやすく貯蔵困難な事から、我々の様な輸送コストのかかる地域など、条件不利地の集乳には必要不可欠な機能とも言えます。しかしこの制度をあまりよく知らない部員もあり、やはり家庭内でご主人や後継者との会話の中でもっとよく知るべき、考えるべき事だと思

います。

又、今年の家の光一月号に農民作家「山下惣一」さんの寄稿があり、アメリカ次期大統領のドナルド・トランプ氏がTPP離脱を表明されたが、先行きは色々不透明なものになってきている事が書かれていました。又、デーリイマン一月号には、当組合の向井地組合長も出席された座談会「酪農生産基盤と乳業の今後」の様子が掲載され、農協改革や指定生乳生産者団体制度についてが話し合われていますので、どうぞお手元に有りましたら「一読下さい」。

全国的に、高齢者や担い手不足による離農が進み宗谷南農協も他人事ではありませんが、しかし喜ばしい事に現在当町には、新規就農を目指し研修を重ねている方がいます、我が家も37年前新規就農時に皆様から色々お力添えを頂き現在に至っています。新規就農は喜びはもちろん、不安もあります。どうぞ私共にお手伝い出来ることがあれば喜んでさせて頂きたいと思っています。ころです。

昨年JA宗谷南女性部は、8月に東北・北海道大会が札幌であり1道6県の皆様と有意義な時間を過ごしました。10月には宗谷女性大会・家の光大会、11月には、宗谷家庭介護教室が当番地区で部員の皆様には忙しい思いをさせました。11月の全道大会においては4名が参加しましたが、殆どが初めての参加でしたので、500人を超える大会に感動した様子でした。今年より多くの大会などに参加が出来ればと思っています。

また、女性部の行事では、昨年10月に知

床方面の視察研修を行いました。2日目のクルージンが悪天候の為出航できず残念でしたが、知床峠を横断し羅臼町・斜里町へ向かいました。あの知床峠のシラカバの姿には驚きと感動です。さらしさと、厳しい自然の姿を体験させて頂きました。これも宗谷南農協のご協力のお陰と心より感謝申し上げます。

最後になりましたが、当女性部へのご指導、ご協力を頂いている関係機関の皆様、組合員の皆様、部員の皆様にお礼を申し上げますと共に、皆様のご多幸・ご健勝をご祈念申し上げます。どうぞ今年も宜しくお願い致します。

宗谷南農協女性部

部長	奥出	きい
副部長	小林	幸恵
副部長	菊池	静子
理事	樋口	睦美
理事	日南	利美
監事	向井	早苗
監事	小椋	八重子



宗谷南農業協同組合



代表理事組合長	向井地 信之
理事・総務委員長	下山 勲
理事・業務委員長	小野寺 俊一
理事・生活店舗 整備工場運営特別委員長	小林 政夫
理事・総務副委員長	木村 浩
理事・業務副委員長	吉田 明彦
理事・生活店舗 整備工場運営特別委員長	山崎 幸夫
理事兼参事	寺前 孝義
理事兼金融・共済部長	清野 盛
代表監事	高橋 壮治
監事	佐々木 英世
員外監事	平田 勝一郎

他職員一同

宗谷南酪農ヘルパー利用組合

組合長	小林 政夫
副組合長	安井 一晃
理事	桜庭 明彦
理事	澤田 和人
理事	浜口 昌拡
理事	山岸 也須彦
理事	高橋 博則
代表監事	政木 大治
監事	石田 幸也



他職員一同

宗谷南乳牛検定組合

組合長	下山 勲
副組合長	今 尚春
理事	関口 真也
理事	山岸 也須彦
理事	向井地 善史
理事	井上 英之
代表監事	藤山 祐介
監事	高橋 慶大



宗谷南乳質改善協議会

監事	監事	副会長	副会長	会長
大塚	中野	生方	山崎	向井
		順	孝	地信
悟	隆	亮	敏	之



宗谷南農協年金友の会

監事	理事	理事	副会長	会長
樋口	戸澤	手嶋	高橋	菅原
幸子	敏子	金造	正巳	重道



謹賀新年

昨年中は大変お世話になりました。衷心よりお礼申し上げます。

今年も自己研鑽を重ねて知識と技術の向上を図ってまいります。

何とぞ、昨年と変わらぬご利用・ご活用を賜ります様お願い申し上げます。

皆様におかれましても、健康で稔り多い年であります様ご祈念申し上げます。

下

向